

ぱん・ぱん・ぱんぷきん

キーワード：子育て支援 古民家移築

活動地域：北海道河東郡士幌町

活動地域概要：

士幌町は、十勝の北部に位置し大雪山系から流れ出る音更川の両岸に広がる平坦な大地を中心として、数段の丘陵からなっている。平均気温は6.5度で冬期は-20度以下になることもある。積雪量は比較的少なく、北海道を代表するじゃがいもの産地。「しほろ」の町名は『広大な土地』という意味のアイヌ語「シュウウォロー」が、なまってシホロとなり、士幌の文字が当てられた。人口7千人弱の農業地域。



団体・活動概要：

当団体は広域な地域を巡回する子育て支援カー「ぱんぷきん号」を取り巻くサポーターとして結成され、町内の「中士幌児童ステーション」と協働して、子育て・児童支援事業を推進してきました。町内を巡る活動の中で地域の環境破壊を目の当たりにして、環境保護も地域の大きな課題であることに気が付き、中士幌児童ステーションに隣接する土地に、子育て支援・地域学習ゾーン「遊～遊～村」を開村することとしました。また、町内巡回中に見つけた古民家を村の中核施設「ふるさと子育て伝承館」として移築し再生することにしました。助成対象活動は、この多様な人々の協力を得て成し遂げた古民家移築事業と完成後の子育て伝承館でのイベントに関わるものです。今後は携帯電話を活用した子育て情報システムの開発等を行うとともに、市街地に地元産の小麦を生かしたラーメンの店を開業して経済的な自立を目指しています。



ぱん・ぱん・ぱんぷきん

設立：1999年 メンバー総数：23名

代表者：松浪 智子

連絡担当者：松浪 智子

連絡先：〒018-2509 北海道河東郡士幌町中士幌西2線80-4

TEL：01564-7-4030

FAX：01564-7-4507

E-mail：panpukin@cpost.plala.or.jp

ホームページ：なし

1 団体の目的と経緯

目的：子育て支援 環境保護

経緯：子育て支援カーによる巡回活動

私たちの町、土幌町は大規模農業地帯で、広大な地域に小学校6校、保育所6所が点在しています。このような現状の中であって、子育て支援や児童健全育成を担う施設は中土幌児童ステーション1施設しかありません。

1999年、中土幌児童ステーションが独自に開発した子育て支援カー「ばんぷきん号」の完成と同時に有珠山が噴火し、支援カーの最初の仕事が被災地の子ども達の支援でした。その時の呼びかけに応じボランティアとして集まった面々が支援カーを取り巻くサポーターとして結成したのが会の始まりです。支援カーによる巡回子育て支援事業は、その後、学校週5日制の移行に伴う児童の土曜日対策事業として始まった巡回児童館活動へと発展し、会員は指導員、補助員として活動しています。

会の結成以来、子育て支援と並んで地域の環境保護活動に重きをおいてきました。子育て・児童支援で町内をくまなく巡回する過程で、今、地域で何が起きているかを知りました。土幌町は大規模農業地帯で、来るべき農業の自由化に備え大規模な農地造成が成され、その結果もたらされた環境破壊を目の当たりにして「環境保護なくして子育てなし」の思いをますます強くするに到りました。地域の子育て支援と環境保護が私たちの会の柱になっています。

2 活動の内容

古民家移築 伝承館活用プログラムの実施

町内をくまなく巡回する子育て・児童支援の中で私たちの目に飛び込んできたものは、信じられないような環境破壊でした。今、地域で起きている現実を直視し、その解決法を模索する過程で、子育て・児童支援及び地域環境学習センター「遊～遊～村」

をこの事業の為に無償貸与を受けた荒地3,000㎡に開村することにしました。同じく町内を巡回する過程で、打ち捨てられ朽ち果てようとしていた築89年の古民家(開拓百年の北海道にあっては歴史的遺産です)を見だし、この古民家を譲り受け、遊～遊～村に移築し「ふるさと子育て伝承館」として現代の子育て、文化、環境ハウスとして甦らせることにしました。古民家の移築は、遊～遊～村プロジェクトの中で最大の難事業になりました。構想から4年、まず古民家の正確な図面の作成から始め、この時点で埋もれていた古民家に関心を持ってくれた設計士、建設会社の人々が協力を申し出てくれました。



団体のメンバー

北海道の開拓の歴史は開発の歴史で、自然、歴史、文化を残そうという意識が極めて希薄な地域性の中で、開拓百年を経てやっと自分達の寄って立つ足下の自然や歴史や文化や産業や生活に目を向ける余裕が生まれてきました。そういう微妙な住民意識の変化の中に、私たちの事業は時代意識の反映として時を得ていたのだと思います。古民家の移築は、事業の性格上、力仕事が大半で結果としてそれまで子育て支援とは無縁だった技術系の男性のサポーターを



建物本体の基礎の丸太打ち



建物の組み立て

吸引しました。走りながら考えたのですが、村づくりの為に村人を募集したところ、大勢の人が住民登録をして村人になってくれ、最終的には、会員数358名の遊～遊～村サポーター「村人の会」にまで発展しました。古民家解体前の部材の番号うち、図面への記入、ユニック車を使っての解体、運搬などなど事業を進めるうちに、話題性と人が人を呼んで、応援してくれる村人が増えていきました。最後の再建は、宮大工さんが技術指導をしてくれて村人総出で建て前をしました。ここまでくると、部材の提供、設備、電設、屋根などの職人さんが続々名乗りをあげて応援してくれました。構想から4年、人も資金もない中で夢を語り継ぐことによって、多彩な人材の合力によって、古民家「ふるさと子育て伝承館」は完成しました。

伝承館のお披露目は、子ども達の「村づくりワークキャンプ2005」でスタートしました。歴史体験宿泊事業と組み合わせ「ふるさと子育て伝承館」落成記念Tシャツづくりから始まり、自分達でつくった石窯や堆肥づくりから行っている無農薬有機農法による、ゆうゆう農園の作物でグラタンやパンを焼きました。

その他、村づくりワークキャンプでは、炭窯づくりに取り組みました。廃材や流木を使って炭づくり、水や川と遊ぶ親水塾事業や、村づくりワークキャンプの野外活動で炭は大活躍しています。

また遊～遊～村は無水地帯で、水を確保する為に、親水塾事業として、手打ちボーリングにチャレンジしました。70名の子ども達の参加を得て2日間で7m打ち込み、見事地下水を掘り当てました。水は水道からと思っていた現代の子達にとって手押しポンプでくみ上げる水はとても新鮮で、いつも水の回りは人ばかりで、手押しポンプで終日水をくんでいます。

地域性として北海道の長く寒い冬を逆手にとって、

寒い冬をおもいきり楽しんじゃおうという「遊～遊～村・しばれ塾」では、地産の牛乳を使い、あえて冬に寒い戸外を利用してアイスクリームづくりにチャレンジしました。暖かな「伝承館」で食する冬のアイスクリームもおつなものです。「しばれ塾」ではさらに地下水を使い透明度の高いアイスキャンデルをつくり、夜は100個のアイスキャンデルにローソクを点灯し、幻想的な光のオブジェを楽しみました。

気づいてみると遊～遊～村に住民登録してくれた村人はいつしか小学生276名、大人82名になっていました。これからも村人の会と協働し村づくりを通じた子育て支援及び環境学習を実施していきます。



手打ちボーリング風景

3 活動の成果

多様な主体の能力の発掘 新たな活用素材

まったくのゼロからの村づくり、そのことが優れた子育て・児童支援及びエコ学習になるようにソフトをプログラムしました。その中で想定を越えたことは、子ども達の「ものづくり」に対する関心の高さでした。古民家移築などのダイナミックな村づくり事業が子ども達にとって憧れの技術となりました。



古民家の屋根工事



古民家の内部の梁

よくよく考えてみれば、現代の子ども達はできあいのものを与えられ、何かものをつくるという機会や経験の乏しい子ども達です。村づくりというまったくのゼロから創り出していった遊～遊～村の建設は子ども達の創作欲をいたく刺激したようです。ものづくりをしたいという子ども達の夢が叶うようプログラムを改良していきました。

私たちの会にあって子育て支援といえば女性の出番が多かったのですが、村づくりという性格上、今までの女性を主とした子育て支援とは異なる、男性の技術系の人達の取り込みに成功しました。村づくり、古民家移築、石窯づくり、炭窯づくり、井戸ボーリングなど、土木、建築工事は男のロマンをかきたてるようで、呼びかけや募集で応募してくれた人材が続々結集してくれました。

現代の生活様式では職と住が分離していて家庭にあっては父親の影が薄いのですが、しかし、村づくりにあっては技術の伝承は男性にはまり役でした。土木、建設は細心の注意を払わねば事故に繋がります。子ども達への技術の伝承にも細心の注意を払い技術を教えてくれました。遊～遊～村という「るつぽ」はいろんなことを融解し、新しいもの生み出す魔法の装置になっています。村づくりに励む子どもと大人の姿は、ノスタルジーを伴いつつ、とても良い関係に見えてきました。そこには子育て支援及び環境学習センターの村づくりというコアがしっかりあって、コンセプトがしっかりしていたことが、50数年前貧しい地域にあって、子ども達の為に地域あげてピアノを購入したという過去と同じ脈絡の中にプロジェクトはあったのだと思います。

私たちの地域の小学校は平成15年に開校百年を迎え、グランドピアノを更新することになりました。更新されることになった傷つき薄汚れて音色の狂ったピアノには、ふるさと住民の子ども達への熱い思いが込められています。50数年前子ども達にピアノ

をとこの親の願いが地域を動かし、校下をあげての募財でグランドピアノを購入しました。風吹き抜ける板バリの校舎で始めて聴くピアノの音色に生徒はビックリしたそうです。以来、50数年、ピアノは大勢の卒業生を送り出しました。会は更新され廃棄される運命にあったピアノを譲り受け、このピアノを完全に修復し、地域の音楽の基点となったピアノを地域にしっかりと位置づけ、ピアノにふるさとを語ってもらう「ピアノ物語」を創り、今を生きるピアノを通した子育て支援を計画しています。古民家同様、忘れ去られた過去の遺産を掘りおこすことによって、ピアノに新たな命を吹き込み、現在を生きる子育て支援プロジェクトを生み出そうとしています。その修復募財をかねて「ピアノ物語・前夜祭」を200名の参加を得て開催しました。会は活動の過程で古民家移築、ピアノ修復によって歴史と文化を取り込むノウハウを手に入れました。

4 活動資金

「ふるさと子育て伝承館」移築事業の資金は「村人の会」を中心に広く募財と協賛金を募ってやりくり算段がつかしました。

その中でH&C財団の助成は、私たちの事業にあって最大の励みとなり、助成金は「ふるさと子育て伝承館」移築事業の資材費と広報費に充当させてもらいました。移築工事の総事業費260万円の他の財源は「村人の会」を中心とした寄付金、協賛金でまかないました。資金よりも大きな財産は、村人という人材を得たことです。村人のネットワークによって、資材の原物提供や技術をもらい「ふるさと子育て伝承館」を完成させました。

遊～遊～村プロジェクトが成功を収めた大きな要因はこのように子育て支援及び環境学習センターの村づくりというコアがしっかりあって、コンセプトがしっかりしていたことだと思います。



石窯でパイづくり



炭窯のレンガ積み

ばんばんばんさん 音楽文化事業 Part1

「ピアノ物語」前夜祭 ピアノの調べPart1

50 数年経、投下あけての素材で購入したグランドピアノの調い直しにあたり、古で譲り受け地域の文化遺産として保存してきたピアノを愛って、50 数年経のピアノコンサートを開催します。

～秀嶋音楽～

- ＊札幌教育大学ピアノ科卒業
- ＊北海道を中心に幅広い音楽活動をして




1. 日 時：2月11日（土）
10：00～11：30
（開村 9：30～）
2. 場 所：中士幌児童ステーション
3. 会場：総合研修センター前
（開村 9：30、開演 12：10）
4. 持ち物：上ぐつ
5. 申込み：1/13（金）までに
ばんばんばんさんへ電話で予約
6. 定 員：60名（定員になり次第締め切り）
TEL：01564-7-4030
FAX：01564-7-4507
7. スケジュール

9：30	開村
10：00	ピアノコンサート
12：00	会場へ出発
12：10	開演準備・開演

ばんばんばんさん 音楽文化事業 Part1

ピアノ物語前夜祭の案内

5 課題

会は、遊～遊～村プロジェクトを推進する過程で、総勢 358 名の村人の会を立ち上げました。村人の会は小学生 276 名、大人 82 名から構成されています。村づくりというコンセプトのもと子ども達と大人がワイワイガヤガヤ、夢を語り合って村づくりに励んでいます。

そのことが地域に新しいコミュニティを生み出しました。私たちの射程は、当初、村づくりまででしたので、村づくりを通じたコミュニティの創造は想定外で、現在は走りながらコミュニティ・ソフトの開発を進めています。

課題はいささかたびれてきた私たちの次の世代

に会をバトンタッチすることだと思います。地域の課題を受け止めチャレンジする人材が育つことを願っています。

6 今後の展望

第一に会の出発点となった中士幌児童ステーションとの子育て・児童支援の連携は、会の使命として事業を続行したいと思っています。遊～遊～村プロジェクトにあってはソフト事業として「村人の会」を発展させ、建設事業としては、今年は水源を確保したので、懸案の風呂づくり、それも野天岩風呂づくりにチャレンジします。秋口には紅葉を見ながら一風呂という風流が味わえそうです。

また、遊～遊～村で融解され融合した子育て環境事業から生まれた、川と遊ぶ親水塾事業をよりいっそう進めいく予定です。

そしてピアノ物語プロジェクトとしてグランドピアノの完全修復が決定し、契約も済ませ、この5月の中にはグランドピアノは修復に浜松に旅立ち、8月の中過ぎに新品になって遊～遊～村に帰ってきます。ピアノ物語の創作にねじを巻きつつ、第1弾として遊～遊～村で「おかえり音楽祭」を予定しています。

会の今後の最重点事業として携帯を使った子育て情報の双方向性のシステム開発に取り組んでいます。今後のモバイルツールは携帯だと思います。

会の経済的自立としては、3年間、商品化を研究してきた地産の小麦を活用した遊～メン・ショップを立上げ、合わせて会のNPO化を実現させたいと考えています



ふるさと子育て伝承館の活用風景



「ふるさと子育て伝承館」落成記念 Tシャツづくりを終えて